

1. 研究課題名：

衛星リモートセンシングによる広域スケール
生物多様性モニタリング及び予測手法の開発



2. 研究代表者氏名及び所属：

原 慶太郎（東京情報大学 総合情報学部）

3. 研究実施期間：平成 26～28 年度

4. 研究の趣旨・概要

生物多様性の保全には、植生図や土地利用・土地被覆図などの生物多様性を反映した地図作成が不可欠である。

本研究では、環境省の自然環境保全基礎調査における植生図を補完するものとして、本学が受信している MODIS データを用いて全国スケールの土地被覆分類図（全国植生現況図）を作成し、3-5 年周期で定期的に更新する手法を開発することを目指す。さらに、シナリオ分析により植生変化を予測する。

これは、ポスト 2010 年目標である「愛知目標」の実現に向けて、生物多様性の評価・管理及び将来予測に必要な基礎データを提供することにつながり、全国スケールにおける生物多様性保全施策に貢献できると考える。

5. 研究項目及び実施体制

① 土地被覆解析結果の検証とシナリオ分析による将来予測

（東京情報大学）

② 衛星データセットの作成手法と解析手法の開発

（東京情報大学）

③ 代表的植生域における現地検証

（千葉県立中央博物館）

④ 震災被災地における現地検証

（東北学院大学）

⑤ 2.5 万分の 1 植生図との検証

（兵庫県立大学大学院）

6. 研究のイメージ

衛星リモートセンシングによる広域スケール 生物多様性モニタリング及び予測手法の開発

